

研究計画書

研究テーマ

乳がん患者のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）について考える
～下半身麻痺が生じADLが低下した患者、家族との関わり～

所属：看護科 西4階

主研究者：前田智子

共同研究者：麻川真代 丸澤葉志子

1. 研究の背景（動悸と意義）

日本における最新がん統計では、女性におけるがん罹患率において乳がんは1位である。近年乳癌検診受診率は増加し、早期発見・早期治療で、10年生存率が高い疾患でもある。一方、時としてステージが進行した時点で発見される事例も見られる現状もある。

今回、乳がんステージIVで発見され、B大学病院での治験治療中に、多発骨転移により下半身脱力症状が出現し、胸椎後方除圧固定術を受ける。その後、リハビリと乳がんの治療継続の希望があり、A病院に転院したA氏とその家族との関わりを経験した。A氏は治療により症状が緩和するのであれば治療したいとの希望があった。他職種カンファレンスにて、本人の思いや家族背景の情報共有をし、治療方針を検討した。A氏とその家族が望む治療・ケアを受け、その人らしく生き抜くことができる支援はどのような関わりかを振り返り、がん患者に対するACPについて考察し、乳がん患者の看護に活かしたいと考え本研究に取り組む事とした。

2. 研究の目的

他職種連携によるがん患者に対するACPについて考察し、乳がん患者への看護に活かす

3. 研究対象

A氏 70歳代 女性 病名：左乳癌（ステージIV・骨転移・副腎転移）

A氏の家族 長男・長女・次女

4. 用語の操作上の定義

カンファレンス：対象患者の現状や問題点を上げ、協議しながら解決策について検討すること

5. 研究方法

入院時からの看護記録から、患者・家族の思いを抽出する。

抽出した看護記録を元に看護の振り返りを行い、経過と今後の課題を検討する。

6. 研究期間

令和6年1月～令和6年3月

7. 倫理的配慮

研究目的と方法、参加は自由意志であることを書面で説明する。また、参加の有無に関わらず不利益が生じないこと、目的以外に使用しないこと、記載内容に関する秘密は厳重に保管し個人情報の保護に努める。また、研究終了後のデータは5年間保存する。

9, 参考文献

- 1) 阿部恭子・矢形 寛： 乳癌患者ケア パーフェクトブック
- 2) 坂下明大：共有型意志決定,緩和ケア vol.22,No.6,P475-477,2022.
- 3) 平岡栄治：急性期病院での ACP とその注意点・ピットホール,緩和ケア vol.32,No.3,P197-202,2022.
- 4) 林田由美子：病状の説明を受けた後、家族の揺らぎが大きいとき 精神看護の視点から,緩和ケア vol.30,P51-55,2020.
- 5) 柏谷優子:限られた時間で患者との関係性を築こうとする寄り添いのかたち,がん看護 26 巻 4 号,P298-300,2021.
- 6) 佐々木治一郎:がん患者のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)がん看護,28 巻 2 号.,P101-105,2023.
- 7) 竹ノ内沙弥生香：ACP 実践における倫理的な側面, がん看護,28 巻 2 号.,P101-105,2023.
- 8) 小山富美子, 近藤まゆみ：ACP 支援における患者との対話・コミュニケーション がん看護,28 巻 2 号.,P115-117,2023
- 9) 竹川幸恵：価値観コミュニケーション～患者・家族の価値観を明確にする対話～がん看護,28 巻 2 号.,P119-122,2023.
- 10) 児玉美由紀：治療期から治療終了時期の ACP とプロセス がん看護,28 巻 2 号.,P123-126,2023.
- 11) 小沢香：治療終了時期から看取り時期の ACP とプロセス がん看護,28 巻 2 号.,P127-130,2023.